

まほろばだより

第50号



Contents

- **Report1** 2024年度安井医学奨学生学内推薦者決定
- **Report2** 本学教員・研究者及び附属病院勤務医師の女性割合(令和6年5月1日現在)
- **Report3** 男女共同参画に関する授業
- **Report4** 本学附属病院医局長の女性割合
- **Information1** 第14回女性研究者学術研究奨励賞募集

Report
1

2024年度安井医学奨学生学内推薦者が決定しました



一般社団法人大学女性協会国内奨学金の安井医学奨学金は、文部科学省の認定する大学院に在籍中の医学・歯学・薬学を専攻する学業・研究・人物ともに優れた女子学生に学資を授与し、その勉学と研究活動を奨励することを目的として1991年に設立された奨学金です。本学では、2021年度から女性研究者・医師支援センターが主体となり毎年1名の候補者を学内で選考しています。2024年度は4名の応募がありました。

8月19日に開催された女性研究者・医師支援センター運営委員会で慎重に審議をした結果、血栓止血先端医学教室博士課程4年生の細田千裕氏を推薦することが決まりました。全国の大学から推薦された大学院生の選考は大学女性協会にて行われ、11月に安井医学奨学金授与者1名が決定される予定です。細田千裕氏のご健闘をお祈りしています。



【本学候補者】 血栓止血先端医学講座 博士課程4年生 細田 千裕氏

【研究課題名】 化合物を用いた血管内皮細胞からの血管内皮前駆細胞作成

【推薦者】 血栓止血先端医学講座 准教授 辰巳 公平氏

Information
1

第14回女性研究者学術研究奨励賞募集

本学では、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者に対して、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資することを目的に、女性研究者学術研究奨励賞を授与しています。

第14回女性研究者学術研究奨励賞の募集に関するお知らせは、12月上旬に全教職員へ一斉メールでご案内予定です。対象者は、本学の女性教員(教授を除く)、医員、博士研究員、特別研究員、大学院生です。過去の実績者一覧および研究テーマは、当センターHPに掲載しています。数多くの女性研究者からのご応募をお待ちしています。

<https://josei.narmed-u.ac.jp/activity/training/index.html>

当センターHP/女性研究者育成▶



本学教員・研究者および附属病院勤務医師の女性割合

(令和6年5月1日現在)

令和6年度の本学医学部女性教員・女性研究者の割合は、女性研究者・医師支援センター設立前および法人予算でセンター運用を開始したH26年度と比較して着実に増加し、女性教員は25%、女性研究者は30%に近づいています(図1)。しかしながら職位別で見ると、助教と講師の女性割合は増加しているものの教授と准教授の女性割合は低下しています(図2)。女子学生および女性教員が85%以上と大半を占める看護学科においても、女性教授の割合は60%に低下し、女性准教授も3人に留まっています。また、医学科教員の女性割合は18.7%と第3期中期目標・中期計画(令和元年度～令和6年度)の最終年度目標値である20%には届いていません(図3)。とりわけ医学科の女性教授はゼロ(教授総数43)、准教授は4人(准教授総数57)と指導的役割を果たす女性教員の少ないことが課題です。一方、医学科女子学生の割合は本年度30%を超え、博士課程大学院生の女性割合も増加傾向にあります(図4)。医学教育および研究の多様性構築の観点からも更なる女性教員の増加、女性の教授および准教授の増加が望まれます。

本学附属病院に勤務する医師では、臨床研修医から教員候補となる診療助教まで女性の割合は25%を超えていますが、臨床系女性教員の割合は17.6%に留まっています(図5)。臨床系女性教員の採用割合は、令和元年度をピークにここ3年間は下がり続けています(表1)。臨床系女性教員増加に向けて、診療助教等から教員へ女性の採用を加速することが望まれます。当センターでは、今後も女性診療助教や病院助教を対象とした研究支援を積極的に行い、彼女等の教員採用を応援します。一方、本学の常勤女性医師数は若手医師を中心に順調に増加しており、本年度は第3期中期目標・中期計画の最終目標値である140人を超える153人となりました(図6)。若手常勤女性医師の増加は、本学で働き方改革が順調に進み、妊娠・出産、育児等のライフイベント中も働きやすい職場環境が整備されていることを反映したものと考えられます。

図1 医学部女性教員・女性研究者割合

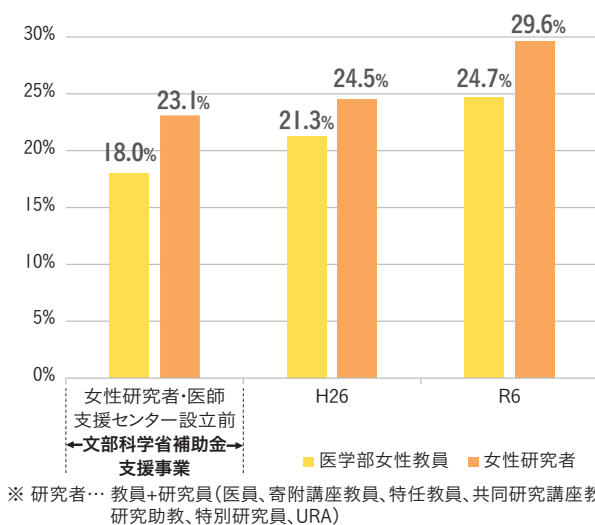
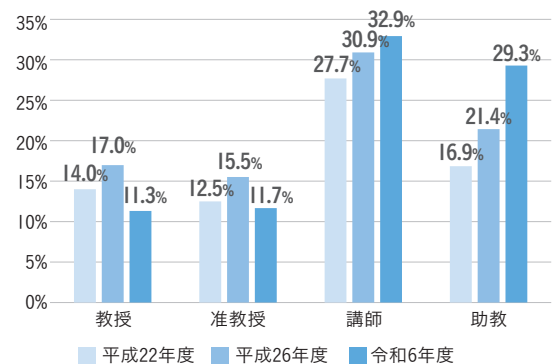


図2 医学部教員職位別女性割合



	センター設立前	平成26年度	令和6年度
教授・准教授	13.3%	16.2%	11.5%
講師	27.7%	30.9%	32.9%
助教	16.9%	21.4%	29.3%

図3 医学科女性教員数・割合の推移

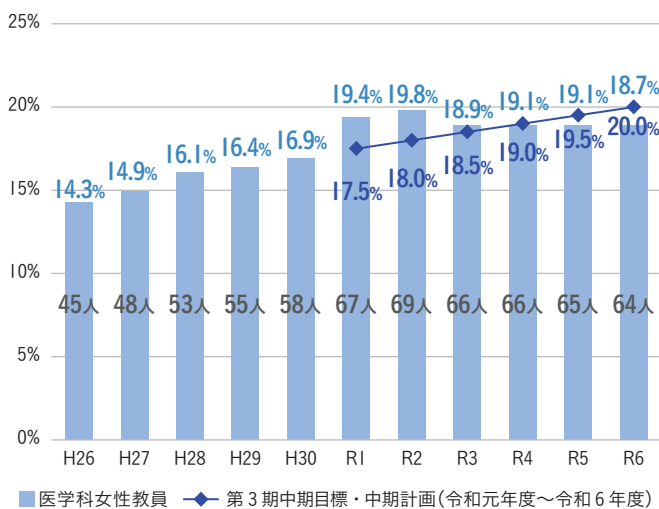


図4 医学科教員・学生の女性割合の推移

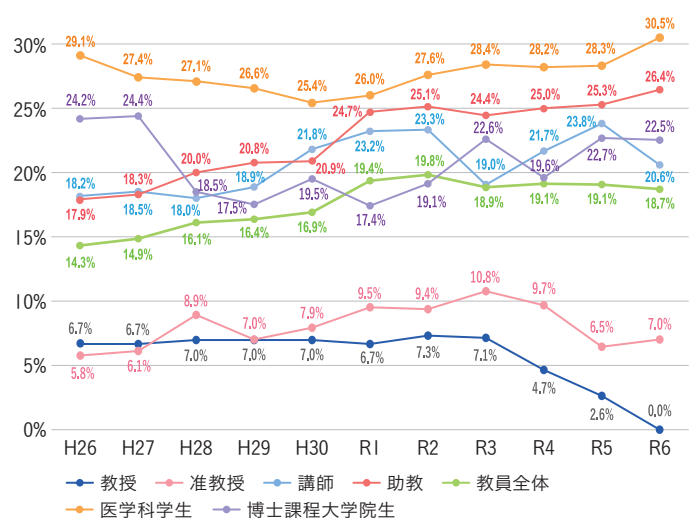
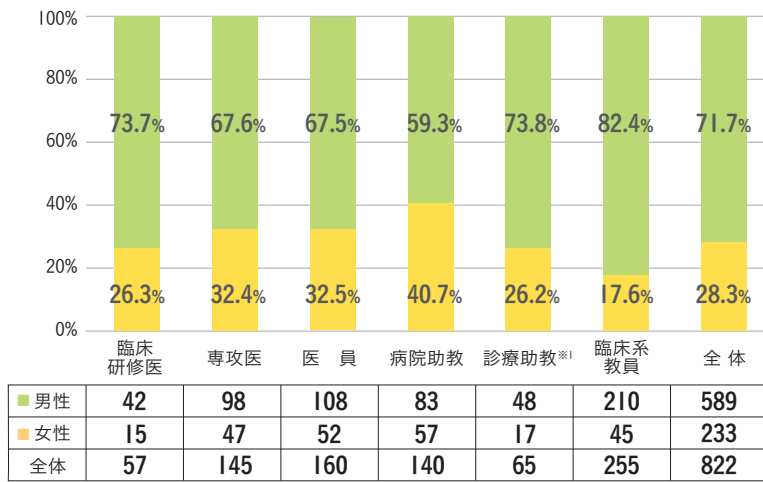


図5 附属病院勤務医師の職位別男女割合



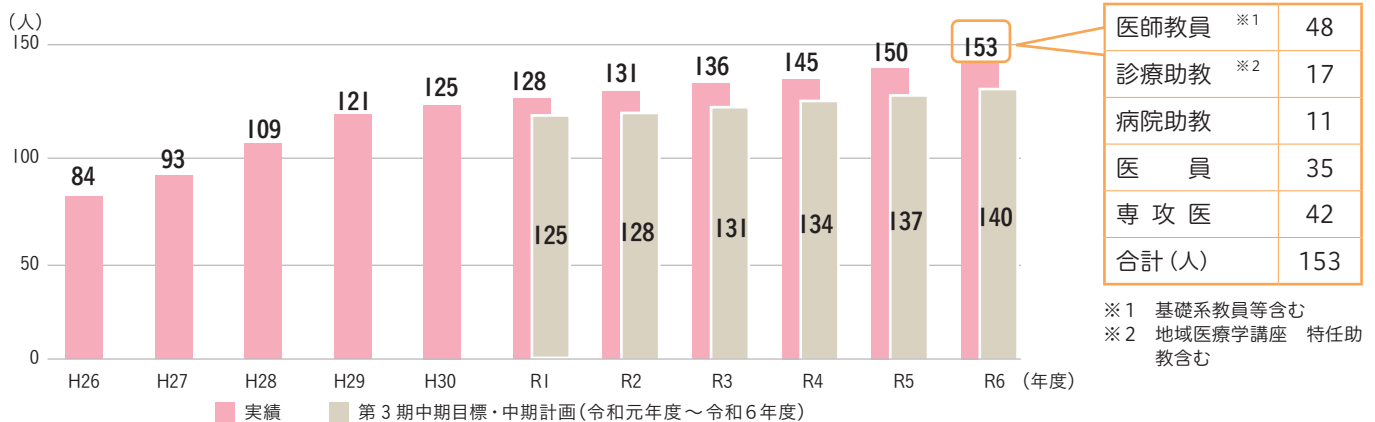
※注1 常勤特任講師及び特任助教を含む (単位:人)

表1 女性教員採用割合

	医学部 女性教員	医学科 女性教員	臨床系 女性教員
H26	18.2%	12.8%	16.1%
H27	26.7%	23.3%	21.6%
H28	30.2%	22.9%	22.7%
H29	23.1%	22.2%	20.0%
H30	31.4%	22.6%	24.0%
R1	33.3%	28.9%	35.1%
R2	15.4%	13.2%	11.8%
R3	31.6%	23.5%	16.7%
R4	24.3%	17.6%	15.6%
R5	16.3%	12.2%	12.1%

注) 女性教員採用割合 (%) = $\frac{\text{女性教員採用数}}{\text{男女教員採用総数}} \times 100$

図6 常勤女性医師数(週5日勤務)の推移 ※臨床研修医を除く



令和6年5月1日現在、臨床系女性教員47人の所属教室は表2の通りです。本学で最も多く臨床系女性教員が在籍するのは小児科学と産婦人科学で、現在6人の女性教員が活躍しています。次いで、麻酔科学が4人、皮膚科学と消化器・総合外科学が3人となっています。消化器・総合外科学、がんゲノム・腫瘍内科学、精神医学、糖尿病・内分泌内科学では、昨年度と比べて女性教員が増加しています。また、昨年度は女性教員がゼロであった血液内科学に女性教員が就任しています。臨床医学教室の中で講師以上の上位職に女性が在籍するのは、全28教室中8教室(小児科学、皮膚科学、眼科学、病理診断学、放射線腫瘍医学、リハビリテーション医学、感染症内科学、脳神経内科学)です。これら8教室のうち6教室には複数の女性教員が在籍しており、後進の女性医師の育成も進んでいることを示しています。今後、女性教員が多い産婦人科学と麻酔科学に女性上位職が誕生することを期待しています。一方、女性教員がゼロである臨床医学教室は8教室あります。これら8教室のうち6教室(救急医学、胸部・心臓血管外科学、呼吸器内科学、口腔外科学、脳神経外科学、泌尿器科学)では、残念ながら女性教員および女性診療助教ともにゼロの状況です。

女性研究者・医師支援センターでは、より多くの女性教員の就任と昇進を目指して、今後も研究支援、働き方改革推進、ハラスメント防止、医学科学生へのキャリア教育を実施していきます。

表2 臨床系女性教員の所属教室(令和6年5月1日現在)

所 属	人数 (人)	所 属	人数 (人)
小児科学	6	血液内科学	1
産婦人科学	6	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	1
麻酔科学	4	循環器内科学	1
皮膚科学	3	整形外科	1
消化器・総合外科学	3	総合医療学	1
眼科学	2	消化器内科学	0
病理診断学	2	腎臓内科学	0
放射線腫瘍医学	2	救急医学	0
リハビリテーション医学	2	胸部・心臓血管外科学	0
がんゲノム・腫瘍内科学	2	呼吸器内科学	0
精神医学	2	口腔外科学	0
糖尿病・内分泌内科学	2	脳神経外科学	0
放射線診断・IVR学	2	泌尿器科学	0
感染症内科学	1	その他	2
脳神経内科学	1	令和6年度 臨床医学系 女性教員 合計47名	

■ 講師以上の上位職に女性が在籍する教室 ■ 女性教員が増加した教室
■ 女性の教員・診療助教ともにゼロの教室

男女共同参画に関する授業

「奈良県の男女共同参画」

講師：奈良県こども・女性局 こども・女性課 南 則行 課長

9月10日(火) 医学科および看護学科1年生を対象とした必修授業である「次世代医療人育成論」において、奈良県こども・女性局 こども・女性課の南則行課長から奈良県の男女共同参画についてご講演いただきました。男性も女性も自分らしく力を発揮し、一人一人の幸せを実現できる社会



授業の様子

を目指して行政が女性の就労支援、父親の育児参加促進、子育て応援、性暴力への対策などに取り組んでいることをわかりやすくご説明くださいました。今回の授業には、学生への事前アンケート結果等を基にした学生参加型の形式も取り入れられており、ジェンダーに関する思い込み等について学生が主体的に考える機会となりました。奈良県の男女共同参画について学びを深めた1年生が、将来、県内外で男女共同参画社会の実現を担う良き医療人に成長できるよう、女性研究者・医師支援センターでは今後も男女共同参画に関する教育に取り組んでいきたいと思ひます。



南課長

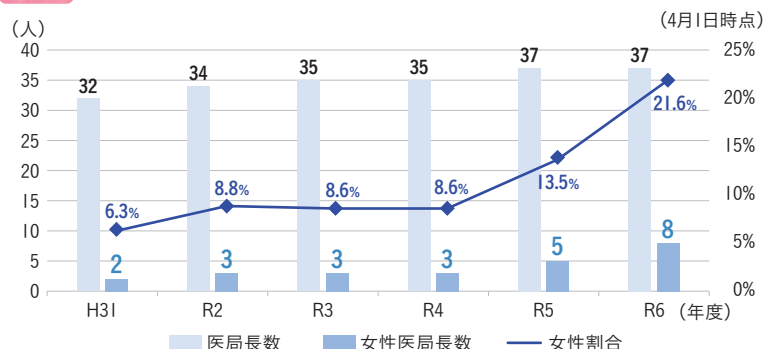
本学附属病院医局長の女性割合

本学附属病院では、各診療科に上司の命を受け、科の運営に関する業務を処理する医局長が選任されています。2024年4月1日現在、28診療部と9中央診療施設に各1名、合計37名の医局長が在籍しています。今年度4月、新たに3名の女性医師が医局長に就任し、女性医局長は合計8名となっています(表1)。女性医局長が在籍する8診療科のうち7診療科では、複数の女性教員(2名から6名)が在籍しています。また、これら8診療科のうち6診療科では、講師以上の上位職に女性教員が在籍しています。女性医局長の存在は、当該診療科で女性医師の育成と活躍が進んでいることを示す一つの指標になると思われます。本学附属病院女性医局長の割合は近年増加傾向にあります(図1)、若手女性医師の増加が進む昨今、男女ともに働きやすい医局運営を実施するためにも、今後益々女性医局長の役割が重要になってくると思われます。

表1 女性医局長(令和6年4月現在)

診療科名	医局長名	発令日
リハビリテーション科	小林 恭代	2017年 9月19日
放射線治療科	三浦 幸子	2020年 4月 1日
感染症内科	今北 菜津子	2022年12月 5日
病理診断科	内山 智子	2023年 4月 1日
産婦人科	山田 有紀	2023年 6月 1日
糖尿病・内分泌内科	紙谷 史夏	2024年 4月 1日
皮膚科	正島 千夏	2024年 4月 1日
小児科	長谷川 真理	2024年 4月 1日

図1 医局長の女性割合の推移



[編集後記]

猛暑の中、子育て中の大人にとって1年で最も仕事に集中することが難しい子どもの夏休み期間に、科研費の申請書類作成に取り組まれた研究者が数多くおられたと思います。大変お疲れ様でした。センターではこの夏も女性研究者8名(臨床系教員2名、診療助教1名、病院助教3名、看護学科教員2名)に科研費の申請支援を行いました。来年の春、一人でも多くの研究者に採択の嬉しいお知らせが来ることを祈っております。

副センター長 須崎康恵

[編集・発行]

奈良県立医科大学 女性研究者・医師支援センター「まほろば」
〒634-8521 奈良県橿原市四条町840
奈良県立医科大学 基礎医学棟5階
TEL: 0744-23-8011(直通)
0744-22-3051(代) 内線: 2525
E-mail: jshien@naramed-u.ac.jp

